

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申し送り後唱和しているが、日々のケアの中での取り組みが行えているか 月間目標に挙げるなどして取り組み考えていただくようにしている。	運営方針は毎日唱和している。また、月間の目標を挙げ取り組んでいる。	理念を掲げ、職員が共有し、地域にも発信して地域密着型施設としての役割をより理解して頂けることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が定期的に来てくれることがあり、利用者スタッフと顔なじみになり課題を一緒に考えてくれている。	自治会にも加入し地域の行事や施設の行事等、地域住民と交流を日常的に持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症地域ボランティア育成のきっかけになるようにと認知症ホーラムの開催を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域を巻き込んだ行事日程の相談や、利用者の身体状態に沿った職員研修 講師の提案をしてくださり運営に役立っている	自治会の役員にも出席をして頂き、活発な意見を出してもらっている。出された意見や助言は職員で話し合いサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加して下さり、事業所の状況を理解してもらっています。入退所時の状況を随時報告 相談している。	運営推進会議にも出席してもらい意見やアドバイスをもらっている。必要に応じて状況を報告したり事業所の実情について相談しながら協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の権利擁護 身体拘束の研修を法人全体で行い、毎月のユニット 全体会議でも必ず検討し、業務をするうえで利用者にとって安心安全な方法を話あっている。	法人全体の研修やユニット会議等で身体拘束をしないケアに理解を深め取り組んでいる。	行動を抑制するような言葉のスピーチロックについての取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、スタッフ間でなんでも相談できる関係を築くことが大切と認識をした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体での研修会を開催。管理者が対応しているので他の職員は対応できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明している、利用料金の変更などある場合は家族個別の対応で説明しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が話しやすい関係を作っておりスタッフも家族の意見を共有しケアに役立てている。	本人や家族から意見や要望を聞くよう努めている。出された内容については全職員で話し合い運営に反映させている。	アンケートの結果と自己評価にズレが見られます。今後、どのように取り組んでいかれるか期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議以外でも休憩時間などに意見や提案を聞くようにしている。	職員会議、ミーティングで意見や提案を出し合えるよう努めている。出された意見や提言は検討し繁栄させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスや人間関係にも耳を傾け、職員それぞれが意欲的に仕事ができる様に声を掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の認知症の研修を持ちどのように認識したかを再度話し合っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人個人では行っているようだが組織としての取り組みが行えていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談で本人の思いをゆっくりと聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の現在の状況や要望を聞きながら、施設での対応を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いを確認しながら利用者にとって必要なサービスの提案をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の片づけや掃除 おやつ作り等一緒にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態をこまめに報告し、家族からの連絡などにより認知症状の安定につなげている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に自宅に帰り家族と過ごしている。	本人や家族の希望で定期的に帰省したり知人や近隣の人が面会に来てゆっくり過ごせる様に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自室にお茶を運び仲よし同士と一緒に過ごせるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移る場合などアセスメントと支援状況を報告している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりで利用者の発言や表情を観察しスタッフで共有するように努めている	本人との対話の中から、どのような支援が最良か、希望や意向野把握に努めている。利用者の意向を汲みとりながら本人本位に検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初のアセスメント以降にも利用者とのかかわりの中から情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の表情や発言などを常に意識し記録するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の意見を聞きながら、ケアを行い観察された事柄からモニタリングを行い介護計画を立てている	担当者会議や日々の生活で、本人、家族からの意見、要望を聞き、モニタリングやカンファレンスを行いながら本人、家族の望む介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に排泄や食事ケア内容一日の過ごし方など見やすい様に工夫している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出を希望される利用者さんに自宅へ送り届けるなどの支援などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市の担当者が出席することで情報交換がで地域の区長や民生委員も出席し施設の状況を理解していただき安全に過ごせる様に話し合っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人なための入所者が多い、かかりつけ医と現在の状態を常に話し合い、身体状態の変化の時にはすぐに対応が出来る様にしている	本人、家族の希望のかかりつけ医となっている。かかりつけ医にはジ状態を詳しく説明し適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しているので利用者の健康状態や変化時には素早く対応してくれる。介護職にはいつでも相談 助言を頂ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との共通の連絡票があり入退院の際には活用している。入院中の状態の把握のために看護師が面会に行き退院に向けての施設体制を考えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意思を随時確認しながら医療と連携し行っている	重度化や終末期のあり方についての方針は家族と話し合っている。本人や家族の意向を確認し医療と連携して終末ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時 事故発生時の対応を実践学習している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練時に地域の方に参加協力をしてもらっている	年2回、日中・夜間の想定で訓練を行っている。地域の消防団や地域住民の協力を得て実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護の研修でプライバシーや尊厳を持った対応があり再度自分たちのケアを見直し取り組んでいる	利用者一人ひとりにあった声かけに努め、人格を尊重し、プライドを傷つける事のないよう配力している。研修会を通してさらに徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者への声掛けをするとき本人の思いを言えるようにしている(〇〇をしますか?等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのその日の気持ちや気分に合わせて過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で行える方には本人の意向で決めている。自己決定しにくい方には一緒に考えて行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を使って作られている。配膳や片づけは一緒に行う	配膳の準備や後片付け等も出来る範囲で関わることができるように機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分摂取量が個々に記録されて月一回の会議で利用者それぞれの体調に合わせて工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に利用者それぞれに合わせた支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立ち上がりができる方にはトイレにて排泄をしている	トイレでの排泄に心がけている。排泄チェック表や利用者の表情等から排泄パターンを把握し、自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を確認し、食事や水分量等をチェックし排便が定期的にあるように利用者それぞれに工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者それぞれの身体状態や希望に沿った入浴の支援を行っている	利用者の希望や体調に配慮し、意向に沿った入浴支援に心がけ、ゆっくり入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を増やしている。利用者それぞれに安眠できるように湯たんぽを使用する場合もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更になったときにはどうして変更するようになったかを個人記録に記入し周知するようにしている。変更後の状況も記録として残している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若いころの生活状況を聞き出して、得意なことなどに積極的に取り組んでもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者それぞれのその日の気分に合わせた支援を行っている。家族にも協力をお願いしている	希望により近隣の散歩や花の手入れをしたり、ドライブに出かける等の支援をしている。地域での行事にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者は現金を持っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や利用者本人からの連絡を取りたいときには支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下は明るく整備している	日中活動で掃除や季節の花を飾ったりしている。 ソファベットを配置し、ゆっくり思い思いに過ごせるように雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の場所が決まっており安心して過ごせている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の段階で本人の生活習慣に合わせた居室の整備をしている	使い慣れたタンスや身の回りの物を持参し、生活しやすい様に配置されている。本人、家族の希望で畳を使用している人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビングは明るく広々とし活動的に過ごせる様になっている		